

白山ふるさと文学賞

第二回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生作文の部 最優秀賞

## 新聞の使い方

北辰中学校三年

桜井 さくらい

湖乃美 このみ

受賞の言葉

この度は最優秀賞に選んでくださり、ありがとうございます。修学旅行での貴重な体験をもとに、新聞に対する新たな思いをこの作品に込めました。一つの体験によって心から感動できるという楽しさを、今回の新聞に限らず、様々な面で感じていきます。

みなさんは「新聞」という言葉を聞いて、どんなことを感じますか。また、実際に新聞を読んでいますか。「つまらないし、興味がない」とか「難しく、よくわからない」といった印象を持つ人が、中にはいるのではないのでしょうか。実は私も、その中の一人だったのです。

「新聞を読むのなら、テレビを見る方がましだ」とか「新聞を読む必要は別にないだろう」と勝手に決めつけていた私。しかし、様々な体験を通すことで、私の新聞に対する考え方は、変化していったのです。その新聞独自の魅力とは、一体何なのでしょう。

「新聞っておもしろい。」私をそう心から感動させたものは、迫力のある新聞製造でした。四月に行ってきた修学旅行では、クラス別に分かれて研修を行う日があったのです。その日、私のクラスは、読売新聞大阪本社を訪ねました。そこでは、実際に新聞を製造している様子を見学できたのです。

熱心に紙面を決める編集局の真剣さ。目に追えないくらい印刷のスピード。想像したこともなかった、新聞の姿になるまでの様子というものを、私は目のあたりにしました。一時間に最高九万部というスピード印刷。息をするのも忘れていたような感動を、私は今でも心に覚えています。それが、私の新聞に対する関心の始まりだったのです。

楽しかった修学旅行も終わり、しばらく日が経ったある日、私は書店で新聞についての本を購入しました。あれからというものは、私は新聞への思いが強まり、どうしてもさらに詳しく調べずにはいられなかったのです。見学では、多くの人々の協力によって、一枚の新聞ができていくことを学びました。では、そのつくられた新聞を、上手に使いこなしていくには、どうすればよいのでしょうか。そこで、今回私が選んだのは「池上彰の新聞活用術」という本です。そこには新聞に隠された秘密がたくさん述べられていました。その中でも特に視点を置いたのは「名文だと思った記事を書き写してみる」という一文です。池上さんが言うには「文章力アップの近道」なのだそうです。本当でしょうか。

早速、私は自分の家とついている新聞を使って、実行してみることにしました。読み探しているうちに、私の目はある一部分に止まりました。

「加賀は天下の書府といわれた原形がここにある。歴史とは過去を守るだけでなく未来を読むことだと、綱紀の執念に学ぶ」これを名文だと感じた私は、ノートに書き写します。

「こんなことを繰り返すだけで、本当に文章力がアップするのか」という疑問が湧いてくるかもしれません。しかし、私は実際に、この書き写しを行うことで、新たな発見をしました。名文を書き写す際には、まずその記事の内容を把握していかないといけません。つまり、必ず一通りその記事を読むことになるので、文章の構成が分かります。またその際自分の知らなかった表現の工夫もあるかもしれません。このように、名文を書き写すことにより、そのニュースを理解しながら文章力を上げるヒントを学ぶことができるのです。

新聞は、単に情報を伝える面だけでなく、隠れた魅力が詰まっている面でも活躍しているのではないのでしょうか。それは、まず記事は多くの人々によってわかりやすく編集されていること。そうすることで、読み手は工夫された文章を学ぶことができる。新聞独自の魅力は、ここにあるのだと感じました。

そして、私が一番大切だと考えるのは、その魅力を活用するかしないかということです。読み手に簡潔に伝えるための見出しの工夫。それら以外にも、私たちが得られる部分は大きいのではないのでしょうか。そんな、ただ読むだけではもったいない新聞。工夫された表現を積極的に取り入れることで、初めて新聞独自の魅力が生かされるのだと思います。さあ、あなたも今日から新聞をめくって、その魅力を、楽しさを、感じてみましょう。